

【参加者の声】

- ・「技術トピックス」をフィジカルAI、データセンター、サステナビリティ、モビリティに分けてあり、動向がわかりやすかった。
- ・OEMやサプライヤー各社の状況を幅広く知ることができ、非常に勉強になった。特に、自動車以外の産業機械、建機、パーソナルモビリティに関する情報が含まれていた点は、とても良かった。フィジカルAIやSDVについては、トレンド技術として必要であり、いずれ当たり前になっていくものだと理解した。
- ・各展示会社の代表展示内容がまとめて知ることができ、また過去からの展示内容の変化などのトレンドも解説いただけたことで、価値と技術の流れを俯瞰して見ることができた。
- ・モビリティ産業が「EVの開発競争」から「AIによる知能化」へ大きく舵を切ったことを強く実感した。フィジカルAIや自律ロボットなど、AIが現実世界で動き始めた技術の多さには圧倒された。一方、完成車メーカーは自動運転やロボティクスを軸に新たな価値創造を競い、部品メーカーもセンサー、冷却、電動化といった基盤技術の高度化で存在感を示していた。AIがクルマと社会の未来を一気に押し進める転換点にあることを印象づけられた。
- ・モビリティに限らない各業界の最先端技術について知ることができ参考になった。AI、データセンター関連は普段触れることの少ない領域のため興味深かった。
- ・自動車に関連する企業をピックアップして1つずつご説明いただけたため。展示情報だけでなく、各企業の一般情報なども資料に記載いただき参考になった。
- ・家電業界、自動車業界を問わず、AIを活用した製品やソリューションが主流になりつつある点が非常に興味深かった。特に、OEMが供給する車体をベースに、AIを活用したソリューションを展開することで、新たな価値を創出していく流れが今後加速していくと感じた。こうした潮流に乗り遅れないためにも、AIに対する理解を深め、実業務での活用を継続的に進めていく必要性を改めて認識した。
- ・カーボンニュートラルから、今はAI、それを使ったロボット、AIの電力対策が参考になった。日本メーカーの展示は派手さはないが、基本技術性能に優れた展示が多かったと感じた。
- ・BEV、CNを直接訴求する展示から、AIやロボティクス、自動運転などが次世代の競争領域になっている実態が非常によくわかった。ENEOS展示のデータセンター向け浸漬液冷システムがBEV分野でも適用されていくのか今後も注目したいと思った。
- ・カーボンニュートラル、サーキュラーエコノミー等のハードウェアに関する取り組みが減速し、自動化・AIをテーマとした開発が推進されていることを、展示会の各社ブースを示しながら説明いただけた点が、大変わかりやすく参考となった。
- ・モビリティ関係の動向も、今までの自動運転からAIを活用したものに大きく変わっている現状が感じられた。グローバルに成長スピードが加速しているとともに、AIに比重が置かれたものになっていると感じた。
- ・最新トレンドや技術動向について、完成車・部品メーカーやIT企業が出展した先端技術製品など業界の今後の方向性を把握することができた。AIも生成AIからフィジカルAIへ移行していることが印象的であった。
- ・EVの話題は少ない印象で、モビリティとしてはEVよりHEV、カーボンニュートラルよりサステナビリティの方が流行であると感じた。電動化よりAI技術の方が各社力を入れている印象を受け、AI技術を上手く使っていくことが今後の競争力強化に繋がっていくと感じることができ、有意義だった。
- ・BEVの車両展示が減ったことで、BEVは新規技術ではなくなったと市場が判断していることが理解できた。